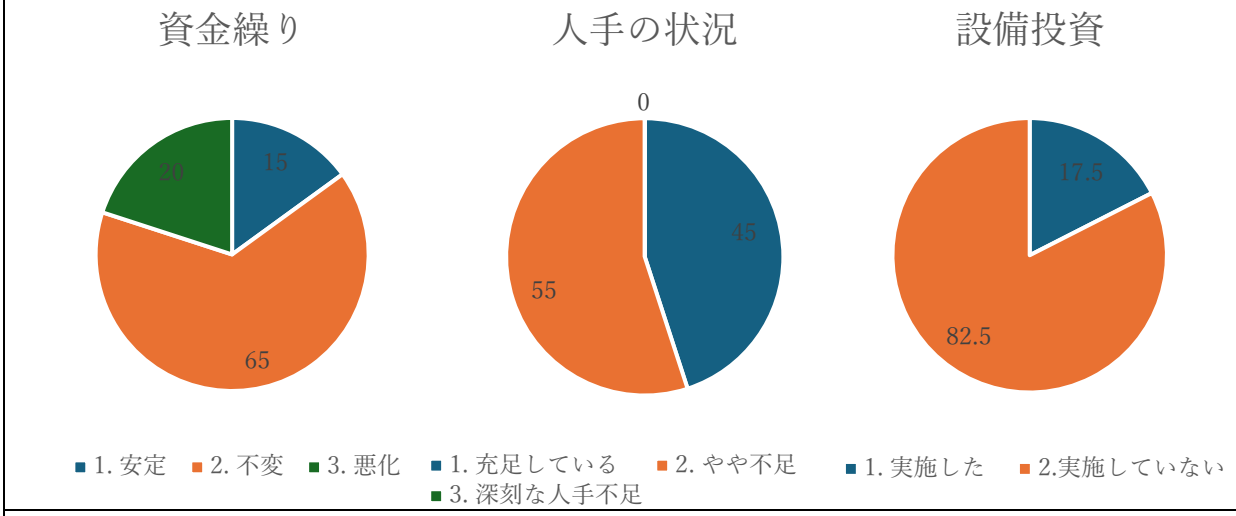
神河町景気動向調査報告書(調査対象：令和７年７～９月)

製造業				建設業			
	売上	採算	業況		売上	採算	業況
増加（好転）	2	2	3	増加（好転）	2	2	1
不変	4	4	5	不変	6	6	6
減少（悪化）	2	2	0	減少（悪化）	4	4	5
小売業				サービス業			
	売上	採算	業況		売上	採算	業況
増加（好転）	3	2	2	増加（好転）	1	0	1
不変	2	2	3	不変	7	8	7
減少（悪化）	3	4	3	減少（悪化）	4	4	4

【神河町の今期の景況】

2025 年 7～9 月期の景況感は、製造業・建設業・小売業・サービス業のいずれも「悪化」または「横ばい」が中心であり、全体として力強さに欠ける結果となった。売上・採算も「不変」または「減少」が多数を占め、コスト上昇と需要減少が共通の課題となっている。



【兵庫県内の景気動向】

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

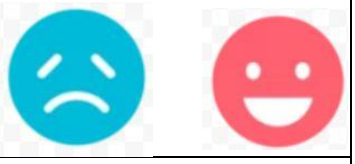
個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

【今期の景況を踏まえた今後の経営に関する重要点】

全体として、企業経営における最も大きな課題は「コスト上昇への対応」と「需要変化への柔軟な適応」である。物価高や人件費上昇が続くなか、価格転嫁だけに頼らない付加価値経営の推進や、デジタル化・省力化による効率経営が求められている。また、景気の先行き不透明感が続く中で、販路拡大や新分野への挑戦など、持続的成長を見据えた中期的な経営戦略の再構築が重要となっている。

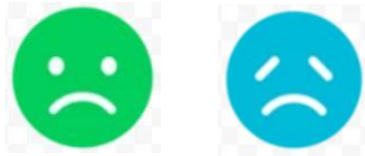
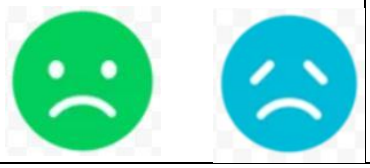
製造業　景況表情図（DI の変化）

売上	採算	業況
前期 / 今期	前期 / 今期	前期 / 今期
		

≪町内の製造業における今期の景況≫

売上面では一部で明るい兆しが見えるものの、コスト上昇が収益を直撃している状況。
好転の兆しを維持するためには、価格交渉力の強化、原材料・エネルギーコスト削減、取引先多様化による受注安定化といった取り組みが今後の課題となる。

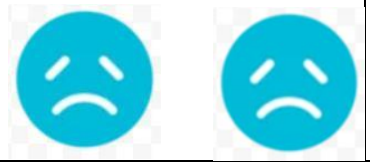
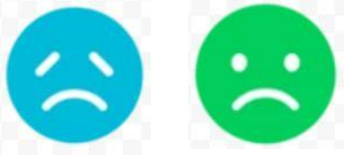
建設業　景況表情図（DI の変化）

売上	採算	業況
前期 / 今期	前期 / 今期	前期 / 今期
		

≪町内の建設業における今期の景況≫

需要回復が一部にとどまり、コスト上昇と価格転嫁の難しさが経営を圧迫している。景気全体の持ち直しを実感できない事業者が多く、今後は公共事業・地域需要の回復促進、コスト増への対応策（省エネ・効率化等)、価格転嫁や付加価値向上の取り組みが経営の持続性確保に向けた重要課題となる。

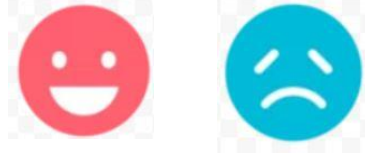
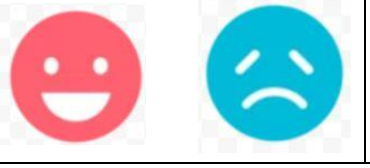
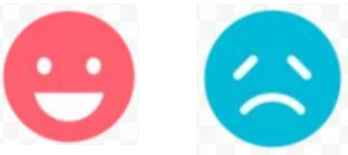
小売業　景況表情図（DI の変化）

売上	採算	業況
前期 / 今期	前期 / 今期	前期 / 今期
		

≪町内の小売業における今期の景況≫

コスト高と需要構造の変化が経営に重くのしかかる一方、消費者ニーズを的確に捉えたサービス提供により成長を維持している企業も存在する。今後の課題としては、少子化による需要減への事業転換・多角化、価格転嫁や効率化による採算改善、個別対応・地域密着型の顧客戦略強化が挙げられる。

サービス業　景況表情図（DI の変化）

売上	採算	業況
前期 / 今期	前期 / 今期	前期 / 今期
		

≪町内のサービス業における今期の景況≫

コスト増と消費停滞が重なり、景況感は横ばいからやや悪化の傾向。新規需要やイベントなど一部のプラス要因を除けば、「前年より厳しい」と感じる事業者が多数を占めている。今後の課題としては、価格転嫁と客離れのバランス調整、固定費の削減・効率化、地域需要や新規顧客の開拓などが求められる。

※DI とは・・売上等を前期と比較し、回答割合から、景況の動向を算出する指数

図の見方					
	前期比+15%以上	前期比+５～+15%	前期比+５～－5%	前期比-5～-15%	前期比-15%以上